

課題対応取組報告書

【共通】

名称	浪速地域総合相談窓口					
提出日	令和 7 年 7 月 7 日					

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	多様なネットワークを構築するため、地域包括支援センターと連携し、地域にある各種団体等に広く総合相談窓口の周知を行う。	
地域ケア会議から見えてきた課題	家賃滞納、ライフライン停止など、困りごとが大きくなった時点で、支援が必要な対象者が発見される。	
対象	コンビニエンスストア、集合住宅管理人等、地域にある社会資源や各種団体	
地域特性	浪速地域：市営住宅の集合地域で、独居もしくは高齢者のみで構成される世帯が多い。居住期間が長い住民の中には、顔なじみの関係が一定できている人もあるが、他区からの転居者や母国語の関係から日本語の理解に支障がある人は地域にある社会資源へ繋がりにくい。 大国地域：ワンルームマンションでの生活や転入により、地域との接点が少ない環境で生活している高齢者も多い。地域主体の活動の場に参加している住民の間では、お互いを気に掛け合う関係が構築されている。	
活動目標	①気軽に相談できる関係性を構築する。 ②積極的にニーズを把握できるシステムを作る。 ③相談を受け止め、対応する力を向上する。	
活動内容 (具体的な取組)	①-1 地域事業への参加 (いきいき百歳体操/ふれあい喫茶/まつり/敬老事業/新年会/認知症高齢者搜索模擬訓練) * 1 ①-2 「浪速包括・プランニュース」の配布 (年3回) /認知症講演会・健康展への参加 ①-3 相談先の掲示 (芦原橋郵便局・自転車) ①-4 ケースの報告も含めた、地域福祉センター/地域役員/民生委員児童委員等との連携 * 2 ②-1 * 1、* 2に同じ。 ②-2 見守り訪問 (定期) ②-3 総合相談窓口の周知 ・セブンイレブン大阪1丁目 (地域包括支援センター、浪速区保健福祉課高齢者支援担当同行) ・阿倍野住宅管理センター (第1回定期地域ケア会議) ・浪速区生活支援課 (生活支援担当新任者研修) ・浪速警察署交通課 ・地域の歴史について学ぶ (浪速区障がい者基幹相談支援センター主催) ・クリーニング店/靴店 (浪速区認知症初期集中支援チーム同行) ・cafe & salon kurasu (一般社団法人えがおの樹によるコミュニティ活動) ・医療機関/薬局 (ケースを通じた訪問) ③-1 研修への参加 ③-2 地域包括支援センターへ相談/スーパービジョン	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・前年度と比較し、相談実人員113%に増加、相談者の内訳では、介護支援専門員/地域福祉センター/地域包括支援センター/本人の順で前年比100%を超えた。 ・阿倍野住宅管理センターからの相談が3件あった。(近隣トラブルの背景に認知症等) ・浪速警察署との情報交換等により、個別ケースへの支援も含めた(特殊詐欺・夜間のせん妄)、地域住民の生活を守る体制づくりに繋がった。	
今後の課題	いきいき百歳体操、ふれあい喫茶等に参加されている顔ぶれが一定している。繋がりにくい人とは出会いにくい人でもあるため、新しい地域の居場所等で引き続き周知活動を行う他、他の取組みについて、地域包括支援センターにも相談しながら検討していく。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日 専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	令和7年7月24日(木)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性	<input type="checkbox"/> 繙続性	<input type="checkbox"/> 浸透性・拡張性	<input checked="" type="checkbox"/> 専門性	<input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント *△後の取組継続に向け、△地域 包括支援センター運営協議会からの意 見等を記載	・コンビニ、住宅管理人、地域にある社会資源や関係機関と連携をとることで地域との接点が少ない高齢者をひとりにさせないという積極的な取り組みが見える。 ・観光客や外国の方が多い地域なので、より地域の方たちとのつながりが大事なところだと思う。 ・集会所に来られる住民の日々の暮らしを目で確かめることから感じ取り、寄り添って話を聞いて相談に乗ってもらえる。安心してお任せできることがうれしい。				